学びスクエア　SDGs 持続可能な明日へ

新聞使う研修 企業も注目

新聞を使った企業内研修などを「NIB（ビジネスに新聞を）」といいます。ビジネス界でSDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まる中、17の目標をあしらった付箋と新聞紙面を使うオリジナルのワークショップが社内浸透に役立つとして、学校だけでなく企業からも注目されています。

10月末、職業体験型テーマパーク「キッザニア」を運営するKCJグループ（本社・東京）で、付箋を使ったNIB研修がありました。国内の５拠点や社員の自宅をオンライン会議システム「Zoom」で結び、19人が参加しました。

本社勤務の女性は「塩ザケとカブの煮込み」の材料や調理法を紹介した記事に目をつけ、「栄養に関する知識があるかないかで人生の分かれ目に立つことも」と発言。「質の高い教育をみんなに」との目標入り付箋を記事に貼り、レシピ記事をSDGsにひもづけました。有楽町事務所の男性はカルロス・ゴーン被告に関する記事に同じ目標の付箋を貼り、つぶやき欄に「倫理道徳教育」と書き込みました。

専務執行役員の能勢幸次さんは「社会課題がわかりやすく身近に感じられるコミュニケーションツール。多様性を認める社会をめざしてどう発信していくかという課題についてのヒントや気づきもありました」と振り返りました。

ワークショップのご相談は朝日新聞社NIE事務局（03・5540・7870）まで。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。